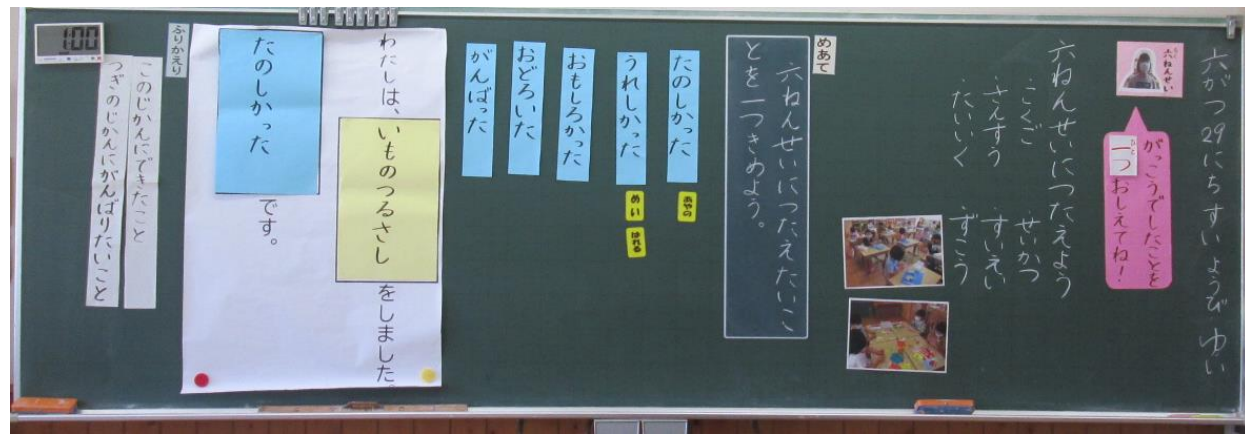


6月29日(水)は、宮地先生による国語科の研究授業でした。本単元では、「6年生に思ったことや伝えたいことを絵日記に書いて伝える」という単元ゴールを設定していました。本時は、1/5時間目です。入学してからの出来事の中から、伝えたいことを一つ決め、簡単な文章に表すという学習でした。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 『こんなことがあったよ 6ねんせいにおしらせしよう』全5時間
教材名 「えにっきをかこう」(東京書籍) 1年2組 宮地 美如 先生
本時の目標：書くことを一つ決め、その時の様子を具体的に思い出し、簡単な文章を書くことができる。
本時における見方・考え方：一番伝えたいことと、その出来事を伝えたい気持ちがぴったりにあるか考えている。



本時の板書1/5



どれを一番にしようかな。

伝えたいことに合うのは、どんな気持ちかな。

友達との対話を通して、いろいろな出来事の中から伝えたいことを一つ決めています。

宮地先生による授業のリフレクション

子どもの思考に寄り添った授業が大事だと感じました。1番を選ばせるための工夫など、児童の実態と合わせながら、児童の考えを狭めないようにしなければいけないと感じました。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定
 - 1年生の6月で学習に向かう姿勢ができています。
 - 対話を仕組み、自分の思いをつぶやけるところがよかった。
 - ▼話し合いの参加のさせ方をどうすればよかったのか。
 - 手順を板書に示すとよかった
 - ▼エピソードや理由、根拠など詳しく言おうとしていた児童の発言をとめてしまったので、短絡的に進んでしまった。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫
 - ICTを活用した6年生からのメッセージは興味を引いてよかった。また1年生にとって身近なファミリー班の班長さんへ伝えるでもよいのではないか。→より相手意識がはっきりする。
 - ▼絵日記を提示し、ゴールイメージを持たせても良かったのではないか。(学習への目的意識)
- 3 「言葉による見方・考え方」を動かせるための手立てや働きかけ
 - ▼付箋の使い方…一枚にするのであれば、ワークシートにそのまま書かせても良かったのではないか。→伝えたいことをたくさん付箋に書かせて、その中から選択させるという活動でも良かったのではないか。
 - ▼伝えたいことについてウェビングを活用して、広げても良かったのではないか。
 - ▼文章の型がなくても書けたのではないか。
 - 文章の型がないほうが自由に書けて、詳しく書いている人のものをお手本にできる。
 - ▼思ったこと(嬉しかった、楽しかった等)、子どもから引き出したい。

6月段階での1年生の実態に合わせて、宮地先生が色々な工夫をされて授業づくりを行っていることがよく伝わりました。今回の授業を通して、子ども達にどのような対話をさせるのか、また、どのように付箋やツールを活用して子どもの思考を広げ深めていくのかなど考えることができましたと思います。研究授業からの学びをこれからの自分の授業にどのように取り入れていくのか考えていきましょう!

板書交流の様子

学校訪問時の板書写真をもとに、良い点や課題点などを付箋に書いて交流することで、自分の授業に生かし、授業改善につなげられるようにしています。子どもの発言を残したり、子どもの思考の過程が分かる板書を目指していきましょう。



着眼点のあるめあてになっているかな?

めあてとまとめは合致しているかな?



振り返りの視点は付けたい力につながっているかな?